

平成２１年度第１回社会教育委員会議（要録）							
開催日	平成２１年４月２８日（火）			開会時間	１０時００分		
会 場	市役所４階 ４０１会議室			閉会時間	１１時４０分		
委員の 出欠状況	石川 孝雄	出	神 杉 彰	欠	井上 真弓	欠	
	横 溝 健	出	斎藤 和康	出	○ 大谷 鐵子	出	
	◎ 柳下 雅弘	出	加山佐代子	出			
	小黒 和夫	出	浪 間 貞	欠			
	村山喜三江	出	小林 貴博	出			
	石井 康隆	出	川崎みち子	欠	◎議長 ○副議長		
傍聴者	０名						
事務局	【教 育 委 員 会】大久保教育長、田中部長 【生 涯 学 習 課】富岡次長兼課長、星野主幹兼課長補佐、鈴木統括主査、 中田統括主査、下村主事、谷保主事 【スポーツ青少年課】富澤課長						
議 題	・ 委員長あいさつ ・ 教育長あいさつ ・ 新任職員あいさつ ・ 新委員紹介 ・ 平成２１年度和光市教育行政の重点について ・ 議事 １ 平成２０年度生涯学習事業報告 ２ 平成２１年度生涯学習事業計画 ３ 平成２０年度文化財保護事業報告 ４ 平成２１年度文化財保護事業計画 ５ 平成２０年度青少年担当及び健全育成関係団体事業報告 ６ 平成２１年度青少年担当及び健全育成関係団体事業計画 ７ 平成２０年度生涯スポーツ振興事業報告 ８ 平成２１年度生涯スポーツ振興事業計画 ９ 特別テーマ「今、高齢者世代は、市民協働による市の活動を推進する役割をどう担 っていくべきなのか。」 ・ その他						

1 開会

⇒事務局より、会議の内容については、要点記録の会議録作成後、公開する旨を説明。

○柳下委員長あいさつ

- ・ 今日、世界的に不況の中、豚インフルエンザなども発生し、人々の生活に様々な影響が出ている。
- ・ 社会教育委員会議は、生涯学習に根ざすと高齢化社会に基づく、お年寄りの生きがいに非常に関係深い。
- ・ 今後、ますます高齢社会になるにあたって、和光市がこれからどのように進んでいき、どういう指針で我々の考えを反映し、補助できるのか、また我々がどのように関わっていけるのか、非常に重要な役割であると考える。
- ・ 和光市も5月に市長選を控え、色んな状況変化も予想される。
- ・ 社会教育についても、様々な状況変化がある中で、この会議で委員のみなさんに多くのご意見をを出していただき、そのご提言を活かして、明るく住みよい市、和光を目指していきたい。

○大久保教育長あいさつ

- ・ メキシコやアメリカなどで豚インフルエンザが発生しており、パンデミックな状況も予想されているが、昨日県から連絡があったことによると、国内においては発生していないため安心している。
- ・ 今日の人々の学習機会については、高度化・多様化しており、いつでもどこでも誰でも自由に学習できるように、幅広い学習機会の提供が求められている。
- ・ 社会教育については、新しい分野でのプログラムの開発も求められている。
- ・ 社会教育は、生涯学習の中核である。その中で社会教育委員は重要な役割を担っている。
- ・ この社会教育委員会議については、臨時会や課題物に対する小委員会の開催も視野に入れ、活動を活性化していくことが大事であると思っている。
- ・ 事務局としても、機能的な会議運営ができるように心がけていきたい。

2 新任職員あいさつ、新委員紹介

＜新任職員の自己紹介＞

平成21年4月1日付けで異動のあった職員について、紹介、あいさつ。

⇒事務局職員自己紹介。

＜新委員の紹介：2名＞

- ・ 市内県立養護学校・高等学校長、石川孝雄氏（埼玉県立和光国際高等学校校長）
- ・ 市立小中学校長会、横溝健氏（第二中学校校長）

3 平成21年度和光市教育行政の重点について

⇒資料に基づき、事務局より、次第3の平成21年度和光市教育行政の重点について、説明。

4 議事

- 1 平成20年度生涯学習事業報告
- 2 平成21年度生涯学習事業計画
- 3 平成20年度文化財保護事業報告
- 4 平成21年度文化財保護事業計画
- 5 平成20年度青少年担当及び健全育成関係団体事業報告
- 6 平成21年度青少年担当及び健全育成関係団体事業計画
- 7 平成20年度生涯スポーツ振興事業報告
- 8 平成21年度生涯スポーツ振興事業計画

⇒議事1～8については、事前に資料配布を行い、委員に一読していただいたことから、説明については省略。

(柳下議長) 説明省略については、了承。特に変わった点など特徴的なものの説明を事務局に求める。

(事務局)

<生涯学習課生涯学習担当>

大きな変更点はないが、平成20年度は理研レクチャーが3回開催された。また、いつも生涯学習課が単独で開催していた人権講演会を人権文化課と共催で第1部、第2部に分けて開催した。

<生涯学習課文化財保護担当>

平成20年度は、指定文化財展を開催した。毎年開催してほしいという要望も多くあったが、今年度の実施は難しい。ただ、数年に1度の単位で今後も開催していきたいと考えている。

<スポーツ青少年課青少年担当>

特に大きな変化はないが、青少年健全育成作文の募集をかけたところ、平成20年度が3905点あり、例年に比較して応募数が多かった。

<スポーツ青少年課スポーツ振興担当>

スポーツ事業については、順調に実施している。今後については、新しい種目の実施なども検討していきたい。

(小林委員) 事業報告・計画については、多くの資料を提供いただいているが、内容をみても実施した事実一覧だけが記載されている。今後の改善点を示すために、実施事業の成果は評価しているのか、または評価していく方向性はあるのか、教えていただきたい。

(事務局) 庁内での内部評価となるが、行政評価を実施している。また、講座等の開催の後に参加者にアンケートをとり、今後の参考としている。今後は、この社会教育委員会議のような市民会議などで、市民の視点での評価も視野に入れていきたい。

(柳下議長) 今後の会議の資料作成として、成果も内容の中に盛り込んでいただけたらよいと思う。また、成果の反映の仕方についても工夫していただきたい。会議資料の量が多くなるようであれば、説明していただけるだけでもよいと思う。今後も効率的なより良い会議運営をしていきたい。

(事務局) ここで、資料に基づき、生涯学習課の平成21年度年間スケジュールについて説明する。この年間スケジュールに基づき、事業を推進していく予定である。

- ・ 5月の放課後子ども教室については、5月からとの記載であるが、公民館ではすでに4月から開始している。
- ・ 平成21年度は新規として10月30日(金)から11月3日(火)までさいたまスーパーアリーナにおいて、生涯学習フェスティバルを開催する。

(柳下議長) 生涯学習フェスティバルは、市町村の展示会を実施するということなのか。和光市でいえば、ささら獅子舞を実施するなど考えられるが。

(事務局) 全国生涯学習フェスティバルということで、平成21年度は、埼玉県全域で開催することとなっており、埼玉県の紹介をすることになる。和光市は、歴史資料コーナーを考えていて、昔の民具の展示や昔あそびなどを考えている。予算がない中で、工夫して取り組む予定である。

(柳下議長) 生涯学習フェスティバルについては、詳細が決まったら、また次回の会議で説明していただきたい。

9 特別テーマ「今、高齢者世代は、市民協働による市の活動を推進する役割をどう担っていくべきなのか。」

⇒事務局より、資料に基づき、提案趣旨について説明。

- ・ 今の時代、団塊の世代と呼ばれる人々が退職を迎え、その世代の余暇活動のあり方が社会問題として問われている。
- ・ 市政の立場からは、市民協働として市民のボランティアの力のニーズが高まっている。

- ・この両者をうまく連携させ、高齢世代のパワーを生涯学習や地域活動の担い手として活かすことができるのではないか、そのためには、行政としてどのような働きかけが必要なのか、ということについて、委員のみなさんに協議していただきたい。

(大谷副議長) 会議資料の２１ページの和光市で現時点で行っている市民協働の例の②声の広報吹き込み事業について、「聴覚」障害者と記載されているが、「視覚」障害者であると思うので、訂正願いたい。

また、自分の活動を通して、団塊の世代の活動については、女性の参加に比べ、男性の参加が少ないように見受けられる。その原因が何なのか、それに対する解決策をこの場で導けたらよいと思う。男性は活動へのきっかけを待っているように感じることもあるが、そのきっかけづくりについて、何かいいご意見をいただきたい。

(柳下議長) 男性は、定年後、タテ社会からヨコ社会への状況変化になじむのが難しい。いままでの肩書きが通用しなくなる。また、定年する頃には、自己形成が完結していて、頑固になっている。また、日本の特徴として、高齢者世代にボランティアはまだ馴染んでいない気がする。

(小黒委員) 自分の立場を考えると、年齢や状況がよくあてはまっている。男性は、特定の群れの中で過ごすことが多く、女性は、井戸端会議などを例に不特定多数の群れの中で過ごすことが多い。また、夫婦関係からいえば、女性は男性に先立たれても、家事など、いつも通りの生活であるが、逆に男性は、炊事・洗濯の家事など、慣れないことをやらなければならない。これらの点からも、男性は新しい環境に慣れることが大変である。

また、古民家については、開園時間が決まっているため、利用しづらい面もある。秋に夜間開放して、虫の声をきくイベントを催したり、小川を利用して、ホタルを解き放ち、秋を楽しむイベントがあってもいいのではないかと。開園当初は、訪問者も多かったが、最近は、何かイベントをやらなければ人が集らない。利用しやすいように、夜間の活用も考えていただきたい。

(柳下議長) 古民家の開園時間について、夜間は利用できないなどの決まりがあるのか。

(事務局) 開園時間については、規則で定めているが、イベントなどがあれば夜間活用もできる。怖い話やお月見、和楽の調べなど季節にあったイベントは、夜間開催している。

(柳下議長) 開園後の古民家の活用方法について、引き続き、季節などに応じて、タイムリーなものを開催していただきたい。古民家については、様々なイベントを開催しているが、魅力ある事業の開催が参加意欲を啓発するのではないかな。

(小林委員) 古民家の管理について、イベントなどプログラムに固められているように見受けられる。管理強化のために、自由な利用ができなくなっている面があるため、市民が集まり活動する場としての魅力が薄れてきているように思える。

(柳下議長) 家庭から疎外されがちな団塊の世代の男性にとって、居心地のいい場所をつくれば、男性の参加者も増えるのではないかな。また、講座重視の人が増えているようだが、講座に参加して、その成果を活かして、何かできることがあるか考えることも必要である。これからは、誰にとっても居心地のいい場所づくりが必要になってくるのではないかな。また、イベントのプログラムは量も大切かもしれないが、質も重視したほうがいい。一つでもいいので、充実したイベントが増えればいいと思う。

(事務局) 3年前、古民家サポーター養成講座を開催した。当時は45名程度の参加者がいて、現在はその半分の方が活動をしている。学んだことを消化し、活かしていけるようにすることも大事であると考えている。

(斎藤委員) 高齢者世代のこれからの役割については、こんなことができればいいとか、具体的に何をしたいか、ということを考えれば、自ずと答えが出てくるのではないかな。

(柳下議長) 講座については、幅広い魅力あるメニューを考えることも大事である。また、今まで学んできた知識を活かせるような場の設定を考えることも大事である。市民講座と称して、団塊の世代の市民に講師依頼し、今まで培ってきた経験などを発表する場があってもいいのではないかな。自分のプライドにくすぐられてやる気が出てくる人もいるのではないかな。

(小黒委員) 市民大学講座があるのだから、もっとレベルを落として、市民高校(中学校、小学校)講座などがあってもいいのではないかな。境遇が似た仲間で勉強会などできる場があってもいいのではないかな。

(柳下議長) 市民が遺伝子や脳について、講演してもいい。その中で、理研などに協力いただき、補佐してもらう講座があってもいいのではないかな。

(村山委員) 浦和の例でいえば、市民が地域で集って、それぞれの得意分野について、それぞれ講師をやって、お互い学んでいく活動をしている。地域ごとなど小さな集まりからはじめてみてもいいのではないか。ただ、その地域で中心となってやってくれる人物を探すことが課題として残る。

(柳下議長) みなさん、それぞれ様々な団体に属していると思うが、自分の経験談から言えば、総会時に構成メンバーの誰かが、講師となり、30分間、自分の普段の活動(趣味や仕事内容)を講演する場を設けている。ちょっとした場でも発表できる環境をつくる必要があるのではないか。

(小林委員) 一般的な傾向として、生涯学習施策は行政が送り手として講座などを開催し、市民が受け手となることが多く、送り手と受け手という関係が固定されがちである。これからは、受け手の市民が送り手になって講座の企画をしたり、講座の講師をするなど、これまでの仕掛けを逆にすると、今までにない新しいものができるのではないか。

以前、八潮市生涯学習まちづくり推進課の方と話をしたときに、八潮市では、出前講座(生涯学習まちづくり出前講座)が盛んであると聞いた。その成果のひとつとして担当者が指摘していたことは、講座の講師をする職員側も自分の日々の仕事の棚卸しをして、長所や欠点を再認識できるという点である。市民が市政を知ることだけでなく、職員にとっても仕事の振り返りができ、モラルの向上や業務改善につながるのとのことであった。

(小黑委員) 放課後子ども教室に3～4回、講師として参加させていただいたが、自分に何ができるか考える勉強にもなり、子どもたちとも触れあうことができるいい機会になった。

(柳下議長) 自分も人生の経験談を話して、多くの賛同を得た経験がある。大それたテーマでなくても、自分の生き様を語るだけでもいいと思う。

(加山委員) 高齢者は、遠くへ出向くのが困難になってくるので、できれば地域活動ができればいいのではないか。そのためには、自治会を活用し、それぞれ自治会長に協力いただいて、地域で講師を依頼し、講座などを開催できればいいと思う。

(石川委員) 高校の立場として、現在、開かれた学校が重要なテーマとなっている。地域の住民との連携が求められている。講座などで社会教育との連携は、県が一括して情報収集し、県民に広報している。和光国際高校においては、平成21年度は、パソコンの講座を開く予定である。今後は、学校の特色も活かし、英語の講座なども開ければと考えている。

(柳下議長) 4～5年前に社協でのパソコン教室が流行り、参加率も高かった。学校や国の機関を有効活用して、地域単位の講座の開催も検討していければよいと思う。

(事務局) パソコン講座に関して言えば、学校開放講座というかたちで学校の先生にご協力いただき、開催している。

(柳下議長) ただ、せっかく講座の企画をしても、参加する人については問題ないが、参加しない人の意識啓発などについてが課題である。

(横溝委員) テーマを拝見して、「高齢者は今後、～しなければいけない」というと表現が強すぎる。世の中には色んな人がいて、講座に今まで参加したことがない人たちに、地域参加も含め、どういった支援をしていけるのか、ということを考える必要があるのではないか。
学校側としては、昔のことや地元のことなどの知識があって、ある程度お話をいただける人のリストなどがあると、講座の企画などの際に活用しやすい。

(柳下議長) 講師の人選もある程度必要であり、地域の人材を引き出すことも必要である。そこから活動を展開していければよいのではないか。

(村山委員) 相対的な話になってしまうが、会議資料の19・20ページ的那須烏山市とのスポーツ交流会の種目は何であったのか。

(事務局) 少年サッカーである。

(村山委員) 事業計画にも掲載してあるが、スポーツ交流会というと、他の種目も実施しているような表現である。サッカー以外の種目の開催も可能か、また実施種目数を増やすこともできるのか。

(事務局) 平成21年度も少年サッカーを予定している。種目の変更などについては今後検討していく。

(事務局) 今回の会議で、特別テーマについて、委員のみなさんから貴重なご意見をたくさんいただいた。重要なテーマであると考え、受け手が企画する講座の検討などのご意見も出たので、このままで終わらせずに、第2回の会議でも引き続き検討していきたい。

(小林委員) 最後に、確認したいことがある。会議資料22ページのつどいの広場事業について、「N

POは生涯学習課で主催した講座から出発」との記載があるが、わこう子育てネットワークは、会としては、男女共同参画の「おるご〜る」の製作のためのワークショップから出発したと認識している。何らかの講座に参加したことはあるかもしれないが、この書き方について考えていただきたい。

(事務局) こちらの認識では、以前に中央公民館で開催した子育て講座の開催について、代表の森田さんから依頼があった経緯がある。この講座をきっかけに団体として熟したと考えた。今回、ご意見をいただいたことから、誤解を招いてしまうかもしれないので、この部分については、削除させていただきたい。

(小林委員) わこう子育てネットワークは、2000年5月の子育てフェスティバルからスタートした団体である。今までは、こども福祉課や市民活動推進課とのかかわりが多く、それに比べ、生涯学習課と一緒にいる機会が少なかった。これを機会に生涯学習課とも色々と連携、協力していければと思うので、よろしく願いしたい。

5 その他

⇒ (事務局) 社会教育委員の任期が本年6月30日までとなっているため、5月に入ったら各選出団体の長あてに委員の推薦依頼を通知するので、ご協力よろしく願いしたい。

(事務局) 人権教育推進協議会の理事の推薦について、更新となるが、川崎みち子委員でよろしいか。

(委員一同) 了承。

(事務局) また、社会教育員会議の第2回については、7月16日(木)を予定している。新しい委員での会議となるが、またご連絡するので、よろしく願いしたい。

6 閉会